

## 平成 30 年度

資料1-1

## 事業報告書

報告日	平成 30年7月16日	担当者	鈴木弘子
-----	-------------	-----	------

事業名	ピラティス				
事業計画カテゴリ	6. 公民館ふれあい事業				
目標・目的	筋肉から全身のバランスをとる方法を知り、健康な体作りを目指し体を動かす楽しさを体感する。地域の人と一緒にすることで交流のきっかけ作りの場とする。				
日時	平成30年6月29日・7月6日・7月13日(金) 10時～11時15分				
場所・会場	香川公民館 講義室				
講師・指導・協力者	竹内サチ子 (マットピラティスインストラクター・健康管理士・介護予防運動指導員)				
報償額	15,000円 (詳細裏面)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	一般	定員数	16名	実績人数	15名(延40名)
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	1日目 呼吸、姿勢、コア ストローを使いながら呼吸の練習をしたりする 2日目 呼吸と体の動きを合わせながらエクササイズをする。 3日目 ストレッチを行った後の体の変化を感じる。呼吸、姿勢、コアを意識して、エクササイズを行う。ビー玉を使い腹筋の動きを感じる。				
成果	ピラティスは大きな体の動きはあまりないのだが、胸呼吸をしながら下腹部等の筋肉をひきしめ、そしてエクササイズを行っていく。ひとりひとりが出来ているのかどうかは目でみただけではわからないので、普段体を動かさず習慣のない人、運動が苦手な人でも他人と比べずにできるので取り組みやすいと思った。				
自己評価	終了後、体が軽くなった、気持ちが良いなどの感想があり、続けて行いたいという意見が多かった。				
事業に係る課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> <li>申し込み受付開始後、20分で満席となるほどであった。お断りした方からは不満の声がかなりある。しかし、後日キャンセルがあり、キャンセル待ちの方に連絡をとったところ、友達3人で申し込んだので、3人でなければ、参加しないと、電話がつながらず連絡が取れなかったりで、結局キャンセルがでたままの人数での実施となる。また、連絡もなく2日間欠席した人もいた。希望者が多かった事業だったので、結果的に定員割れになってしまったことはとても残念であった。次回はキャンセル待ちの人数を多くしてみようと思った。</li> <li>今後も続けたいと希望があり、サークルを立ち上げるまでに話が発展したのだが、皆、サークルのリーダーにはなりたくないという事と公民館の利用者懇談会に加入という事で、せっかくの話が流れてしまった。もう少し上手なアドバイスができれば違ったのではないと思うと残念であった。</li> </ul>				

Aa

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成30年度

資料1-2

事業報告書

報告日	平成30年7月19日	担当者	志村光一
-----	------------	-----	------

事業名	ズンバでダイエット（まちのフィットネス 5月～7月）					
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業					
目標・目的	高齢者が利用の中心となっている公民館を多世代が集まる場とするため、 ①子育て世代（子どもが0歳～小学生）子ども同士、また親同士の交流の場づくり、また公民館に來館するきっかけをつくる。 ②子育て世代に教育的なスポーツプログラムを提供する。					
日時	5月24日（木）13:00～14:00、6月21日（木）10:00～11:00 7月19日（木）10:00～11:00					
場所・会場	講義室					
講師・指導・協力者	AFAA JAPAN 所属インストラクター 平井直美（神奈川県平塚市）					
報償額	¥15,000（詳細裏面）	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金（資金前渡）			
対象者	一般（概ね20代～40代）	定員数	各回20名	実績人数	5月 19名 6月 24名 7月 22名	
材料費	—	材料費用途	—（収支報告裏面）			
概要	5月 ズンバでダイエット 6月 ズンバでダイエット 7月 ズンバでダイエット					
成果	託児を6名設定したこともあり、参加者の年代は30代～40代の子育て世代の方が8割であった。アンケートの参加者の満足度も高く、一定の目的は達成できたといえる。ズンバを来年もやってほしいという声が多く見られた。サークル化までは至らなかったが、自分たちでグループをつくって続けたいという声もあった。他事業も紹介することができ、公民館全体の集客に寄与している。					
自己評価	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">Aa</td> </tr> </table>					Aa
Aa						
事業に係る課題・反省点	ダンスのような身体性のあるプログラムでは、より協働性、参加者間の相互コミュニケーションを意識したプログラムの方が、サークル化のようなコミュニティ形成を期待でき、次へつながる公民館への貢献度を高めることが可能である。また、参加人数を少なくした方がより参加者同士のコミュニケーションが生まれやすい。					

その他

保育ボランティア謝礼  
5月 2名 4600円  
6月 2名 4600円  
7月 2名 4600円

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成30年度

資料1-3

事業報告書

報告日	平成30年7月25日	担当者	森 俊彦
-----	------------	-----	------

事業名	普通救命講習会(前期)				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	救急車が到着するまでの間、大切な命を救うために応急手当の知識や技術を身につけ、万が一の時に備える。				
日時	平成30年7月21日(土) 9時~12時				
場所・会場	香川公民館 講義室				
講師・指導・協力者	茅ヶ崎市消防署消防指導課職員：湯田敦さん、 茅ヶ崎市応急手当普及協会ボランティア3名 計4名				
報償額	(詳細裏面)	支払い方法	<input type="checkbox"/> 講座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	一般	定員数	25名	実績人数	17名 修了証交付16名
材料費	なし	材料費用途	なし (収支報告裏面)		
概要	4班に分かれ(男性1班5名、女性は4名が2班及び5名1班)、前半は心肺蘇生法、体位回復、休憩を挟み、後半はAEDの使用法、異物除去法、止血法の実技講習を行った。				
成果	1 受講者の動機付けは、様々であるが、低減傾向のなかでは、受講者は比較的多かった。 (参考) 28年度後期9名、前期5名、28年度後期8名、前期13名 2 一般的な事故、病気はもとより、近年、自然災害が頻繁におこっている。こうしたなか、公民館において講習会を開催することは必要である。 3 講師が講評でも話していたが、受講者が積極的、前向きな姿勢、取り組み方であった。 講師と受講者とが真摯ななかにも良好な関係性があった(質問が多かった)。				
自己評価	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">Ca</div>				
事業に係る課題・反省点	・受講予定者18名のうち2名については、1名の方は受講お断り、もう1名の方は都合により、途中退席のため、修了証の交付要件に合致しなかった。 ＊1名受講お断り…「遅刻は、30分まで。」当日、9時に来館されないので、電話した。申込みしたこと自体忘却していた。受講意向。30分経過したら受講できない旨お伝えした。近所(鶴が台)なので、すぐに公民館に向かうとのことだった。9時40分頃着。なお、前々日にも、本人に講習がある旨確認したが、その時も忘却していた。 ＊1名「早退のため、修了証交付不可。」11時頃早退。 ・いずれも本人の了解を得た対応した。				

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 30 年度

資料1-4

事業報告書

報告日	平成30年8月2日	担当者	山田 重乃
-----	-----------	-----	-------

事業名	夏のおはなし会			
事業計画カテゴリ	2. 子ども事業			
目標・目的	携帯電話やテレビ、DVD、ゲーム機などの普及により、本離れやおはなしや民話などを聞く機会が減ってきた。この講座では身近な情操教育として、絵本やすばなし（ストーリーテリング）を、語り手とのふれあいを感じながら、想像力をふくらませ楽しんでもらうのを目的とする。 また、親子のスキンシップをはかる「手あそび」や「わらべうた」「昔あそび」を盛り込み、手足を動かす「からだあそび」で幼児の心身の発達を促す。			
日時	①平成30年7月26日（木）10時30分～11時10分 ②平成30年8月2日（木）10時30分～11時30分			
場所・会場	香川公民館 講義室			
講師・指導・協力者	ストーリーテリングサークル 「おはなしのたまご」			
報償額	¥16,000 (詳細裏面)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)	
対象者	①2歳～未就学児（小さい子向） ②園児～小学生（大きい子向き）	定員数	①親子20組 ②子ども25名	実績人数
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)	
概要	①小さい子向き（演目順） わらべうた「ととけっこう」 絵本「わたしのだいすきなどうぶつは」 絵本「ぶつぶつぶー」 わらべうた 手あそび 「そーめんやそーめん」ほか 「にんどころ」 「こまんか」 「おふねはぎっちらこ」 「もぐらさん」 からだあそび 「大布波」 手遊び「あんころもち」		②大きい子向き（演目順） 絵本「ねえ、どれがいい？」 手遊び「わにのお父さん」 おはなし「サルのみも」 絵本「ターちゃんペリカン」 わらべうた（なぞなぞ） おはなし「ねことつぐみ」 布あそび（小波） おはなし「大男と三人の娘」	
成果	・「去年は走り回ってお話が聞けなかったが、今年は楽しそうに参加している様子で嬉しかった」と、子どもの成長を感じた母親がいた。 ・すばなし（ストーリーテリング）では、子どもの自由で独自の想像力でおはなしの世界を楽しむことができたと同時に、話し手と聴き手の目には見えない親密感を体験できた。			
自己評価	・〈身体を動かす〉〈じっと静かに聞く〉〈声を出す〉〈メロディーを聞く〉など、子どもの特性や集中時間を理解、考慮した構成であり、耳を傾け集中できる時間の提供ができた。また、物語や本の世界へに興味を引き出す効果があり、小さい子向けでは親子のスキンシップ場の提供ができた。 ・出演団体さんによる会場づくりで、季節に合った海をイメージするパーテーションや草花などの室内装飾が五感に働きかけ、より一層おはなし会の雰囲気上げていた。			
事業に係る課題・反省点	・タウンニュースや広報特集に参加者募集の講座案内の掲載があったが、参加人数が少なかった。育児サークル等に声掛けや、かめさんのおうちでのちらしを配るのどの周知が必要である。			

Da

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み  
B : 定員の8割以上  
C : 定員の半数以上  
D : 定員の半数以下

a : 充実。次につながりそう  
b : 充実。次へのつながりはない  
c : やや不十分。  
d : 内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-5

事業報告書

報告日	平成30年8月5日	担当者	田端 洋
-----	-----------	-----	------

事業名	みんなの経済教室 ～金融犯罪の手口とその対応策～				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	金融犯罪はその手口が益々巧妙になり、高齢者のみならず若い人でも金融犯罪の犠牲者になることも増えてきています。こうした巧妙化する金融犯罪の被害者にならないために、その手口を熟知して、その防止方法や被害にあった時の対処方法を散知っておくことを目的とします。				
日時	平成30年8月4日（土）13:00～15:00				
場所・会場	香川公民館 講義室				
講師・指導・協力者	一般社団法人横浜銀行協会 職員				
報償額	なし（全国銀行協会負担） （詳細裏面）	支払い方法	<input type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金（資金前渡）		
対象者	一般	定員数	30名	実績人数	—
材料費	なし	材料費用途	— (収支報告裏面)		
概要	全国銀行協会（横浜銀行協会は全国銀行協会傘下）は講師派遣要件を参加人数15名以上と定めている。7/24時点で参加申込者は3名で、今後参加申込者が15名以上になる可能性は少なく、また全国銀行協会への講師派遣中止の連絡期日もあることから、本講座は中止とすることにした。（全国銀行協会には7月24日（火）中止の申し入れを行った。）				
成果	上記「概要」に記載した通り、本講座は中止とした。				
自己評価	Dd				
事業に係る課題・反省点	1. 今回のテーマのような「金融犯罪」や「金融トラブル」等を扱う講座への関心は低いと思われる。また、「ライフプラン」等についても今一歩関心を引くまでには至らない。これらは重要なテーマだと考えるので、今後講座内容を見直し、関心を引く構成にしていきたい。				

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 30 年度

資料1-6

事業報告書		報告日	担当者	
		平成30年8月1日	鈴木 弘子	
事業名	かめさんのおうち 7月			
事業計画カテゴリ	1. 家庭教育支援関連事業			
目標・目的	<p>地域における子育て環境は、必ずしも十分だと言えない状況にある。こうした状況の中、地域の家庭教育学習の拠点として公民館の充実が期待されている。</p> <p>子育ての悩みや不安を一人で抱え込まないよう身近で気軽に利用できる支援の場をつくり、さらには地域との接点の場所として公民館が活用されることを目的として開催した。</p>			
日時	平成30年7月25日(水) 10時~13時			
場所・会場	講義室・保育室			
講師・指導・協力者	香川公民館保育ボランティア 佐藤三沙子・山本茂美・福原純子・磯田ひとみ・鈴木照子			
報償額	11,500円 (2,300円×5名)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)	
対象者	乳幼児を持つ親(保護者)とその子ども	定員数	40名	実績人数 子ども25名 保護者13名 (合計38名)
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)	
概要	<p>0才6名・1才2名・2才1名・3才9名・5才2名・6才1名・小学生4名・保護者13名 計38名 (天気:晴れ)</p> <p>今回はかめさんのおうちで、「乳幼児ふれあい体験」事業も行う。 10時過ぎには参加者もほとんどなく、心配されたが徐々に増え始め、兄弟の就園児や小学生もいたので計38名と最近では珍しい人数であった。公民館に遊びに来ていた小学生も興味を持って覗いていたので、誘うと一緒に幼児と遊び始めた。今回は参加年齢層の広いかめさんのおうちだった。</p>			
成果	小学生、就園児、乳幼児と様々な年齢が集まり賑やかなかめさんのおうちだった。今年、就園した親子も数組いて、久しぶりに会ったことで、会話が弾んでいた。かめさんのおうちで知り合いになった人たちの事も話題になっていたりして、母親同士少なからずも何らかのつながりができていると感じた。			
自己評価	Ba			
事業に係る課題・反省点	参加人数が多いのは喜ばしいことだが、幼稚園児・小学生がいたせいか、とてものにぎやかだった。大きな子ども達も落ち着いて遊んでいたが、遊び方によっては危険も伴うので配慮が必要だと思った。保育室で遊ぶことも、誘ってもよかったのではないかと思った。来月はボランティアの方々にもその旨を伝え、安全に楽しく遊べるようにしたい。様々な年齢の子ども達も同じ場所で遊べる経験は大切にしたい。			

その他

「乳幼児触れ合い体験事業」参加者、小学4年生2名参加。

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

- A：定員以上の申し込み
- B：定員の8割以上
- C：定員の半数以上
- D：定員の半数以下

内容に対する評価

- a：充実。次につながりそう
- b：充実。次へのつながりはない
- c：やや不十分。
- d：内容の見直しが必要

平成30年度

資料1-7

事業報告書

報告日	平成30年8月11日	担当者	鈴木 弘子
-----	------------	-----	-------

事業名	ペープサートを作ろう				
事業計画カテゴリ	2. 子ども事業				
目標・目的	ペープサートを通しおはなしを楽しむ機会を持つ。物を作り、自分で作った物で遊ぶ楽しさを経験すると共に 友だちと同じ目的を持った行動をし、協力して演じるという経験を通し、地域の友だちとの交流の場とする。				
日時	平成30年 7月31日(火)・8月1日(水)・2日(木) 13:00~16:00 (全日参加出来なくても可)				
場所・会場	香川公民館・集会室大				
講師・指導・協力者	和田光一さん・和田倭文子さん他1名				
報償額	(詳細裏面)	支払い方法	<input type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	小学生	定員数	10名	実績人数	延28名
材料費	100円	材料費用途	紙、割りばし、接着材等 (収支報告裏面)		
概要	ペープサートを作って演じる 1日目 指導者によるペープサート「3匹のこぶた」の実演を見たあと、ペープサートの説明を聞き「3匹のこぶた」のペープサート作りに入る。 2日目 前日に続きペープサートを作る。出来上がった子ども達は順次演じてみる 3日目 小道具の家を作る。グループに分かれ順次演じる				
成果	1日目にペープサートを演じてもらった時には、「3匹のこぶた」で最もポピュラーな題材であったにもかかわらず年齢を問わず、皆、食い入るように見ていた。 いざ、制作に入ると、黙々と作業を行う子、想像をふくらましなが、それを口に出して楽しそうに塗っている子とそれぞれ色の塗り方などに個性がでていた。1年生は集中力や興味に個人差があり、個別の配慮が必要だった。指導者はひとりひとりに合わせて、細かくアドバイスして下さっていた。 効果音の楽器も使い自由にセリフを言ったりして、それぞれのグループ楽しく演じていて、笑いが絶えない時間を過ごせた。 中にとっても丁寧に作業を進めていた2名は制作だけに時間がかかっていたが、その仕上がりはとてもよくできていた。				
自己評価	Aa				
事業に係る課題・反省点	参加者は小学1年生から小学5年生と年齢に開きがあり、1年生は早くから飽きてしまったり、けんかをしたりという場面があり、配慮が必要だった。保護者がいたほうが良いのかどうかを考えさせられた。 楽しい時間を過ごしたいということで、指導者も子どもの発想を大切に、ある程度自由にさせてもらえたので、子ども達の自由奔放さの中に発想の豊かさに驚きながらも3日間楽しく過ごせた。 子ども同士だけでなく、指導者、担当者とも距離が縮まり、保護者とも親しくなり地域の中での関係作りの第一歩ができたと思う。				

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 3 0 年 度

資料1-8

事 業 報 告 書

報 告 日	平成 30年8月11日	担 当 者	鈴木 弘子
-------	-------------	-------	-------

事 業 名	新聞紙工作教室				
事業計画カテゴリ	2. 子ども事業				
目 標・目 的	リサイクル回収にしか出せないと思われがちな新聞紙を使って、身の回りの物が簡単に作り再利用ができることを知る。 新聞紙の中から好きな柄などを選ぶことを経験することで、家庭でも新聞の広告に注意を払うようになり、 やがて記事に目を通すようになるというきっかけ作りとする				
日 時	8月 3日(金) ①10:00~12:00 ②13:00~15:00				
場 所・会 場	香川公民館・講義室				
講師・指導・協力者	小澤榮一さん 鈴木進さん 公民館利用サークル「八友会」				
報 償 額	5000円 (詳細裏面)	支 払 い 方 法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対 象 者	小学生	定 員 数	各回10名	実績人数	20名
材 料 費	100円	材 料 費 用 途	のり、洗濯バサミ、台紙等 (収支報告裏面)		
概 要	<p>講師が用意したカラフルな新聞広告から好きなものを選びその中から好きな物を選ぶ。それを8枚重ねた新聞紙の上に重ね、全面広げた半面ずつ糊で張り合わせていく。表面に出したい場所を選びそこ以外から底面になる面を切り取り、筒状に張り合わせ、底を張り合わせていく。作業そのものは難しくはないのだが、コツコツと気長にやらなくてはならない。 張り合わせた新聞紙を成形して筒形の箱を作る。用途は何にでも使える。</p>				
成 果	<p>コツコツと地味な作業なので大変なようだったが、皆、がんばっていた。糊のつけ加減が難しく大人の目を必要とする。最後の成形は子どもには難しく、講師に仕上げをしてもらう。アンケートの結果で「難しい」「楽しかった」との回答が多かったが、作り上げていく楽しさを経験できたのかと思う。</p>				
自己評価	<p>以前、新聞工作の時に、偶然手伝ってくださった公民館で様々な活動を行っている鈴木さんが、ボランティアで今回もお手伝いして下さる。</p>				
事業に係る課題・反省点	<p>難しい作業ではないと、講師から説明をうけていたのだが、やはりコツがあるようで、手伝いに入っても最後の仕上げまでは手伝えなかった。予め練習をしておくべきだった。 公民館利用サークルの鈴木さんが手伝ってくださったことに感謝する。このような流れが広がるのが公民館として理想とするところでもあると思った。 当日、午後2名突然の参加の希望があり、1名欠席もいたので受ける。しかし、人数が増えたことだけが原因ではないと思うが、午前より時間がかかってしまった。ゆとりある時間設定をしなくてはいけないと思った。</p>				

Aa

その他

材料費 100円×22名分=2200円

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

## 平成 30 年度

資料1-9

## 事業報告書

報告日

平成 30年8月19日

担当者

鈴木弘子

事業名	身近な素材で暮らしを楽しむ「虫除けスプレーを作る」				
事業計画カテゴリ	4. 地域交流事業				
目標・目的	身近にあるハーブを使って虫除けスプレーが作れることを体験することで、自分でハーブを育てたり、また周囲の緑に目を向けたりするようになり、自然の大切さを考えるきっかけとする。				
日時	平成30年8月19日(日) 10時~11時30分				
場所・会場	香川公民館 調理室				
講師・指導・協力者	武石卓也				
報償額	¥5,000	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	一般	定員数	16名	実績人数	12名
材料費	¥500	材料費用途	ハーブ、容器代金 (収支報告裏面)		
概要	<p>嗅覚とハーブの関係、ハーブの種類や効能についてレクチャーを受ける。  講師手作りの簡易な蒸留器具の説明を受け、蒸留の様子を見ながら家庭でもできる鍋だけで蒸留する方法も教えてもらう。  出来上がったハーブの蒸留水や講師の準備した各種のハーブを持ち帰る。</p>				
成果	<p>参加者はハーブに関心の高い人が多かったので、質問も多かった。講座前半はハーブについての説明だったが、参加者はメモをとったり、大きくうなずいたりして、とても関心の高い様子がうかがわれた。  鍋だけで作る簡単な方法の内容についても問題点に気づき、それを指摘したり、効率的な方法を提案したりと積極的な参加だった。</p>				
自己評価	Ba				
事業に係る課題・反省点	<p>定員を16名としたが実際はキャンセルが出て12名になってしまったが、講師と参加者の距離が近くなり、ちょうど良い人数だったと思う。  実際、蒸留するところは器具が一つだけなので、講師が行うのを見るだけだったが、この器具も作れたら、より効果の高い講座になったのではないかと思った。  初めての講座であったが、参加者の関心の高さを感じたので今後もハーブに関してのことや身近な素材を活かしての講座につなげていきたい。  参加者どうしでハーブについて情報交換もしており、人のつながりもできていくのではないかと考えた。</p>				

その他

材料費1名500円×12名分=6000円

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

## 事業報告書

報告日

平成30年8月22日

担当者

鈴木弘子

事業名	かみしばいdeボランティア				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	紙芝居実演体験をする機会をつくり不特定多数の人と関わる事の大切さや難しさを学び、「紙芝居を演じるのは楽しい。」「人に喜んでもらうと、もっと楽しくなる。」を感じ、ボランティア活動を考えるきっかけとする。				
日時	8月 7日(火)9:00~12:30 8月 14日(火)12:00~15:30				
場所・会場	1日目(香川公民館・保育室と香川保育園) 2日目(香川公民館・保育室と介護老人福祉施設ハピネス茅ヶ崎)  香川保育園:茅ヶ崎市香川4-46-1 ハピネス茅ヶ崎:茅ヶ崎市甘沼865-1				
講師・指導・協力者	紙芝居サークル“虹-にじ-” 代表 和田光一				
報償額	¥15,000 (詳細裏面)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	小学生~大人	定員数	6名	実績人数	6名(のべ10名)
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	<p>予定していた1日目(7/28)は台風のため中止にしたので、8/7と8/14の2日間で時間を延長して開催する。</p> <p>8/7(香川公民館・保育室と香川保育園)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>演じる子を予め決めておき、紙芝居も選んでおいてもらったので早速練習に入る。</li> <li>雨が降りそうだったので講師の車で保育園まで移動。</li> <li>3名が紙芝居を演じ。“虹-にじ-”の方のリードで参加者、保育園児共に手遊びを行う。</li> </ul> <p>8/14(香川公民館・保育室と介護老人福祉施設ハピネス茅ヶ崎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>順に紙芝居の練習をする。先日行ったペープサート作りに参加した子どもが4名いたので、その時の「3匹のこぶた」の歌を練習する。</li> <li>徒歩にてハピネスまで移動。</li> <li>5名順に紙芝居を演じる。</li> <li>3匹のこぶたのペープサートを持ち、歌をうたう予定が子ども達が即興でセリフを言い始めたので、ペープサートの即興劇がおこなわれた。</li> </ul>				
成果	<p>予定していた1日目が台風のため中止する。日程調整もできないので、あとの2日間を時間を延長して行うことにした。</p> <p>1日目に演じる子ども2名は予め、担当者とともに紙芝居を選び、家で練習してきてもらって、当日朝、練習してから香川保育園に行く。予定していなかった1名も急遽行くことになり、1日目は3名が行う。他にサークルのメンバーの小学生も2名行う。慣れない読み方であっても保育園児はとてもよく見ていて、また来てねと言っていた。演じた子どもも「超楽しい」「またやりたい」と帰り道に言っていた。</p> <p>2日目はハピネスに行く前に練習するが、家で練習してきた成果が見られた。ゆっくり読むように言われるのだが、それはかなり難しいことのように。皆、進んで繰り返し練習をする。本番は練習よりさらによくできていた。お年寄りも見えてくださるのだが、反応があまりないので、数名の方から声をかけられたことは子ども達もうれしかったようだ。</p> <p>即興で行ったペープサートも演じた子ども達が楽しんだのは当然だが、よく知られたお話なので、お年寄りからの反応もよかった。</p> <p>先日行ったペープサート作りの事業に参加した子どもがほとんどだったので、「今度はスイミー作ろうか」という提案もあった。そのような子どもの意見を今後につなげていきたい。</p>				
自己評価	Aa				
事業に係る課題・反省点	台風のため、予定が変更になったが講師が快く変更案を出してくださったので、無事開催することができた。紙しばいを読むのがどうしても早口になってしまう。見る人の立場になって読み方を工夫するのは回数を重ねることが必要なのだと思う。目的がボランティアということを考えてと一度だけで終わらせるのではなく、継続的に行い、紙芝居だけでなく様々な形で交流できたらよいかと思う。				

Large empty rectangular area for content, with a gray vertical bar on the left side.

成果欄 自己評価 評価基準	
定員に対する評価	内容に対する評価
A : 定員以上の申し込み B : 定員の8割以上 C : 定員の半数以上 D : 定員の半数以下	a : 充実。次につながりそう b : 充実。次へのつながりはない c : やや不十分。 d : 内容の見直しが必要

平成 30 年度

資料1-11

事業報告書		報告日	担当者		
事業名		かめさんのおうち 8月			
事業計画カテゴリ		1. 家庭教育支援関連事業			
目標・目的		<p>地域における子育て環境は、必ずしも十分だと言えない状況にある。こうした状況の中、地域の家庭教育学習の拠点として公民館の充実が期待されている。</p> <p>子育ての悩みや不安を一人で抱え込まないよう身近で気軽に利用できる支援の場をつくり、さらには地域との接点の場所として公民館が活用されることを目的として開催した。</p>			
日時		平成30年8月22日(水) 10時～13時			
場所・会場		講義室・保育室			
講師・指導・協力者		香川公民館保育ボランティア 田辺啓子・佐々木里子・江崎裕子・勝啓子・鈴木照子			
報償額		11,500円 (2,300円×5名)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)	
対象者		乳幼児を持つ親(保護者)とその子ども	定員数	40名	実績人数 子ども2名 保護者2名 (合計4名)
材料費			材料費用途	(収支報告裏面)	
概要		<p>小学生2名 保護者2名 計4名 (天気:晴れ)</p> <p>今月も先月に続きかめさんのおうちで、「乳幼児ふれあい体験」事業を行う。</p> <p>11時近くに図書館帰りの親子と12時過ぎに公民館近くの福祉施設の児童と指導員が参加したのみで、今回は予想外の人数であった。 参加者が少なかったため、ボランティアスタッフは玩具の整理をする。</p>			
成果		<p>予想外の人数であったが、なぜ、参加者が少なかったのだろうか。公民館全体の利用者も少なかった。</p> <p>参加した小学生1名は「乳幼児ふれあい体験」に参加した小学生とままごとをして遊んでいた保護者もボランティアスタッフと話がはずんでいた。</p> <p>福祉施設の小学生はボランティアスタッフに遊んでもらい、笑い声が絶えなかった。</p> <p>おもちゃの整理や布団のカバーの掛け替えなどできたことはよかった。</p> <p>朝の準備の段階で、物の配置等工夫して変更してほしいことを伝えると、ボランティアスタッフ同士で、相談しながらいつもと違う配置にしていた。</p>			
自己評価		Da			
事業に係る課題・反省点		<p>参加人数が少なかったのはとても残念であったが、ボランティアスタッフにおもちゃの整理や室内のレイアウトを任せたことで、お互いに色々な気付きを出し合い、作業がすすんでいた。</p> <p>管理はもちろん担当者の行うことなのだが、日々の運営はスタッフのおかげなので意見を取り入れることは大切なことと改めて感じた。</p>			

その他

「乳幼児触れ合い体験事業」参加者、小学4年生1名加。

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

- A：定員以上の申し込み
- B：定員の8割以上
- C：定員の半数以上
- D：定員の半数以下

内容に対する評価

- a：充実。次につながりそう
- b：充実。次へのつながりはない
- c：やや不十分。
- d：内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-12

事業報告書

報告日	平成30年8月29日	担当者	鈴木弘子
-----	------------	-----	------

事業名	乳幼児ふれあい体験「あかちゃんと遊ぼう」				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	核家族化や家族事情により、年齢差のある小さい子とふれあう経験を持っていない子が増えている。そんな子ども達に小さい子どもと接する機会、また可愛いと思う気持ちをもつ機会を作る。また、その触れ合いをきっかけに、誕生から成長していく過程を家庭でも話題にしてもらい、わが子の誕生の喜びなどが伝わり、生命の大切さに気付くきっかけにする。				
日時	平成30年7月25日(水)・8月22日(水) 9時15分～12時30分(どちらか1日のみ)				
場所・会場	香川公民館 講義室・保育室				
講師・指導・協力者	香川公民館 保育ボランティア 7月26日(水)磯田ひとみ・勝佳子・山本成美・田邊啓子・白野恵子 8月23日(水)磯田ひとみ・勝佳子・佐藤三沙子・川浪恵子				
報償額	¥0 (詳細裏面)	支払い方法	<input type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	小学4年生～中学生 (要:保護者からの申込み)	定員数	各回 3名	実績人数	3名
材料費	¥0	材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	かめさんのおうちについて知る。 小さい子どもと接するときに気を付けることを聞き、子ども達と楽しく遊ぶ。				
成果					
自己評価	Aa				

<p>事業に係る 課題・反省点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 申込もすぐにいっぱいになり、子ども達にとっては興味深い内容の事業のようだった。 このところ、かめさんおうちへの参加者も少なく、当日の参加具合が気がかりだったが、心配をよそに、思った以上のかめさんへの参加者があり参加者も楽しく乳幼児と触れ合う機会を持てたと思う。異年齢の交流の機会が少なくなっているこの頃、とてもよい機会だと思う。保護者からも評判なので続けていきたい事業である。</li> <li>・ 26日の参加者で小学生男児が参加を渋り保護者がかなり苦労し、連れてきた。保護者には無理に参加させなくても良いのではないかという旨を伝えるが、どうしても参加させたいとの意向で結局1時間近く後によく公民館内には入って来たのだが、講義室には入ろうとしない。担当者が本人と話をすると落ち着いてきて、自分から講義室に入って行った。しかし、自分の興味の赴くままに遊んでいた。かめさんに参加している乳幼児は本児の遊びに興味を持ち、そばを離れずいたが本児にとってはその乳幼児も遊び相手という感じだった。かめさんに参加した子ども達も楽しく遊べ、結果的には良かったのだが、参加への理由や動機の把握、またそのような参加者への対応の仕方は課題かと思う。</li> <li>・ 昨年度に参加した児童が今回も申し込んできた。あいにく定員になっていたので参加できなかった。昨年度の参加の際、少々問題があったようだが、それでも申込をした理由が気になった。できることなら受け入れたいと思った。ひとりひとり様々個性を持っている。そのひとりひとりをどう受け入れていったらよいのだろうか。</li> </ul>						
<p>その他</p>	<p>別紙添付</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者アンケート</li> <li>・ 保育ボランティアアンケート</li> <li>・ 「かめさんのおうち」参加者感想</li> </ul> <table border="1" data-bbox="368 1688 1466 1957"> <thead> <tr> <th colspan="2" data-bbox="368 1688 1466 1742">成果欄 自己評価 評価基準</th> </tr> <tr> <th data-bbox="368 1742 935 1787">定員に対する評価</th> <th data-bbox="935 1742 1466 1787">内容に対する評価</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="368 1787 935 1957">           A：定員以上の申し込み            B：定員の8割以上            C：定員の半数以上            D：定員の半数以下         </td> <td data-bbox="935 1787 1466 1957">           a：充実。次につながりそう            b：充実。次へのつながりはない            c：やや不十分。            d：内容の見直しが必要         </td> </tr> </tbody> </table>	成果欄 自己評価 評価基準		定員に対する評価	内容に対する評価	A：定員以上の申し込み B：定員の8割以上 C：定員の半数以上 D：定員の半数以下	a：充実。次につながりそう b：充実。次へのつながりはない c：やや不十分。 d：内容の見直しが必要
成果欄 自己評価 評価基準							
定員に対する評価	内容に対する評価						
A：定員以上の申し込み B：定員の8割以上 C：定員の半数以上 D：定員の半数以下	a：充実。次につながりそう b：充実。次へのつながりはない c：やや不十分。 d：内容の見直しが必要						

事業報告書

報告日	平成30年8月28日	担当者	田端 洋
-----	------------	-----	------

事業名	みんなの経済教室 ～～					
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業					
目標・目的	経済状況に係る情報は、新聞・雑誌を始めとして種々の媒体を通じて報道されているが、その情報は多岐に及ぶためただ漫然と受け入れているだけでは経済全体の様子はなかなか掴めません。本講座では、このような経済情報の中から、金融・為替、株式市場の動向を示す情報を中心にその読み方を知り、自分なりの経済感覚を身につけることを目的とする。					
日時	平成30年8月26日(日) 13:00～15:00					
場所・会場	香川公民館 集会室(大)					
講師・指導・協力者	村松 祐子 氏(神奈川県金融広報委員会 金融広報アドバイザー)					
報償額	0円(金融広報委員会負担)	(詳細裏面)	支払い方法	<input type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	一般の方	定員数	25名	実績人数	21名	
材料費	なし	材料費用途	— (収支報告裏面)			
概要	配布資料を基に、概ね次のような解説が行われた。 1. 世界で起きていることは為替レートに集約されており、為替市場を見ていくことが肝要である。 2. 現在の世界経済の構図、日本銀行の金融政策の現状を解説し、今後の経済動向は、米中の貿易通商政策の行方、日銀の金融政策の出口政策に左右される、との説明。 3. 株式市場については、投資家に占める「外国人投資家」の比重が高まっており、しかも彼らは長期投資ではなく利に聡いため、その動きに注視することが肝要である。また、株式市場には新たに起業する企業や次世代を支える産業に注力している企業も多くみられるので、そうした企業の動きも捉えておくことも肝要である。 4. 経済の流れを読むための日米の代表的な経済指標の説明。					
成果	1. 日本経済及び世界経済の現状を知る機会となった。 2. 今後の経済動向は、日銀の金融政策の出口政策や米中の貿易通商政策の行方に左右される、とが分かった。ただ、その見通しについて説明が足りなかった。 3. 株価を動かす要因が分かったこと、特に株価を大きく左右している「外人投資家」の動向「信用取引売買動向」等は注視する要因の一つであることが分かってもらった。 4. 経済の流れを読むための代表的な経済指標(日本と米国)について知ることができた。 5. 申込者数は27名で参加人数は21名であった。					
自己評価	<table border="1" style="width: 100px; margin: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">Aa</td> </tr> </table>					Aa
Aa						
事業に係る課題・反省点	1. 経済の現況の説明に留まらず、今後の見通しについてもある程度言及する内容にしていくことを考えたい。 2. 今回の講座のテーマ「経済情報の読み方」を考慮すると、もう少し経済指標を取り上げ、昨今の経済状況をトレースしながら、それに相対する経済指標を突き合わせる形で経済状況を見ていく形にすれば、経済情報という経済情報の読み方の理解が進むものと思われる。今後、これらと類似のテーマで講座聞かうする際には考慮していきたい。 4. こうした経済講座は、経済への知識のアップデートにも繋がると思われるので、継続して企画していきたい。					

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-14

事業報告書

報告日	平成30年9月1日	担当者	森 俊彦
-----	-----------	-----	------

事業名	夏休み学習室開放				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	1 空き部屋の利用率を上げる。主に集会室小、保育室、和室 2 青少年に学習室の場を提供する。市内北部に個人で学習する場がないため。 (南部・中央部には図書館や青少年会館がある)				
日時	夏休み期間中 (7月21日～8月30日) 35日66コマ 午前の部：9時～12時 午後の部：13時～17時				
場所・会場	集会室小、和室、保育室				
講師・指導・協力者	なし				
報償額	なし (詳細裏面)	支払い方法	<input type="checkbox"/> 講座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	小学3年生～20歳	定員数	各日10名	実績人数	25日41コマ 96名
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	・夏休みの宿題、受験勉強等の自習の場を提供した。 ・窓口で受け付け後、自由席にて学習を行う。				
成果	小学生、中学生、高校生、大学生まで幅広い層、多様な学校からの利用者があった。  静かな環境や学習スペースの観点から学習したいと感じている青少年に学習部屋を提供できた。 28年度17日21コマ44名、29年度11日14コマ、30年度25日41コマ96名の利用状況であり、実績としては利用者は28年度、29年度と比較し倍増した。  (参考) 開放日28年度41日71コマ→実績17日21コマ44名 開放日29年度34日62コマ→実績11日14コマ44名 開放日30年度35日66コマ→実績25日41コマ96名				
自己評価	* 「コマ」は、午前及び午後をそれぞれ1コマとカウント。				
事業に係る課題・反省点	Dc  そもそも学習室開放は、「空き室を有効利用する」、「市内北部に個人で学習する場がないため、青少年に学習(自習)の場を提供する」ことを趣旨に始めて5年目の事業である。 そうしたなか、趣旨・情報提供の周知といった観点から、30年度は香川小及び鶴が台小の各3年生～6年生及び鶴が台中の全学年の児童・生徒へ学校を通じてチラシの配布を行った。利用者からは学校で配布されたこのチラシを見て参加したという児童生徒があり多少の効果があったと推測する。 幅広く利用していただくことはもとより重要だが、さらに児童生徒がより一層継続して利用できるように声をかけていきたい。 試行的に実施した8月19日(日)の「工作や絵画制作など用」の開放は利用者なしで、今後の検討課題とする。				

その他

・空き部屋は6月9日現在において、利用申込みがない部屋を確保した。  
どの時点で空き部屋を確保するかが微妙だが、サークルや一般利用者が自由に予約できる相当期間を経ているので妥当かと考える。  
いずれにしても今後とも注意深く設定する必要がある。

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

## 事業報告書

報告日

平成30年9月15日

担当者

志村 光一

事業名	かけっこ教室（まちのフィットネス）				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	高齢者が利用の中心となっている公民館を多世代が集まる場とするため、 ①子育て世代（子どもが0歳～小学生）子ども同士、また親同士の交流の場づくり、また公民館に来館するきっかけをつくる。 ②子育て世代に教育的なスポーツプログラムを提供する。				
日時	9月15日（土）10時～11時30分				
場所・会場	香川小学校校庭（雨天のため香川小学校体育館で行った）				
講師・指導・協力者	（一社）アステム湘南スポーツソサエティ				
報償額	¥5,000 （詳細裏面）	支払い方法	<input type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金（資金前渡）		
対象者	①未就学児の親子 ②小学生	定員数	①10組 ②15名	実績人数	①13組 ②13名
材料費	—	材料費用途	— （収支報告裏面）		
概要	かけっこ教室（走り方やトレーニング方法を学び実践する）				
成果	①未就学児（4歳～6歳）の親子と②小学生に分けて行ったが、未就学児の親子向けは満員になるのが早かったため、定員を拡大した。ニーズのあった講座であったといえる。また、10月に実施予定の「ボール運動教室」にも、その場で参加申し込みをしていく人もおり、継続性のある事業になったといえる。一部の小学校は運動会1か月前というところもあり、熱心に質問する児童もいた。				
自己評価	Aa				
事業に係る課題・反省点	小学生対象のものを45分で行ったが、1時間あった方がよい。				

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

平成 30 年度

資料1-16

## 事業報告書

報告日

平成30年9月26日

担当者

鈴木 弘子

事業名	かめさんのおうち 9月				
事業計画カテゴリ	1. 家庭教育支援関連事業				
目標・目的	<p>地域における子育て環境は、必ずしも十分だと言えない状況にある。こうした状況の中、地域の家庭教育学習の拠点として公民館の充実が期待されている。</p> <p>子育ての悩みや不安を一人で抱え込まないよう身近で気軽に利用できる支援の場をつくり、さらには地域との接点の場所として公民館が活用されることを目的として開催した。</p>				
日時	平成30年9月26日(水) 10時～13時				
場所・会場	講義室・保育室				
講師・指導・協力者	香川公民館保育ボランティア 田辺啓子・山本茂美・川浪恵子 浜見平保育園 大村淳子(ベビーマッサージ)				
報償額	6,900円 (2,300円×3名)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	乳幼児を持つ親(保護者)とその子ども	定員数	40名	実績人数	子ども3名 保護者3名 (合計6名)
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	<p>乳幼児3名 保護者3名 計6名 (天気:小雨)</p> <p>今回も参加者が少なかった。2名はリピーターなので母親どうしやボランティアスタッフと話が弾む。 今月は豆講座「ベビーマッサージ」を行う。また絵本の読み聞かせも楽しく聞く。</p>				
成果	<p>今月も参加人数がすくなく少なかった。浜見平保育園の保育士による絵本の読み聞かせやベビーマッサージはとても楽しく、人見知り気味の2歳児の女児も次第に表情がほぐれてきスタッフとも遊べるようになった。</p> <p>後半に1才過ぎの男児が参加し、ボランティアスタッフとともに遊んでいて笑い声が響いていた。</p>				
自己評価	Da				
事業に係る課題・反省点	<p>せっかくのベビーマッサージで人数が少なく残念に思われたのだが、少ないからこそ保護者や子どもの反応が良く見られ、ボランティアスタッフからも来年度も続けてほしいと希望がでた。親子が笑顔で過ごす時間を共有するうれしさを実感することでボランティアスタッフも少しでも楽しいことをしてみようと前向きに取り組むきっかけとなっていてほしいと思った。</p>				

その他

鶴が台保育園 地域支援担当職員2名見学あり。  
鶴が台保育園地域支援行事チラシ配布

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

- A : 定員以上の申し込み
- B : 定員の8割以上
- C : 定員の半数以上
- D : 定員の半数以下

内容に対する評価

- a : 充実。次につながりそう
- b : 充実。次へのつながりはない
- c : やや不十分。
- d : 内容の見直しが必要

## 事業報告書

報告日

平成30年9月30日

担当者

山田 重乃

事業名	かがわ健康ウォーク番外編「水彩スケッチ散歩」				
事業計画カテゴリ	6. 公民館ふれあい事業				
目標・目的	健康ウォークのアプローチのしかたを変え、水彩スケッチを行いながらウォーキングの楽しさを体験する。 水彩画をきつかに身近で手頃な運動として歩くことを習慣化できることを目標に開催。				
日時	①平成30年9月21日（金）9時30分～14時30分 ②9月27日（木）10時～15時				
場所・会場	①香川公民館集会室大 香川駅・小出川周辺 ②茅ヶ崎美術館アトリエ 茅ヶ崎海岸				
講師・指導・協力者	小林信幸さん（香川公民館館報「こもれび」編集委員）				
報償額	¥15,000 （詳細裏面）	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金（資金前渡）		
対象者	水彩画初心者	定員数	12名	実績人数	①8名 ②6名
材料費	なし	材料費用途	（講師領収書裏面）		
概要	<p>【1日目】座学後、スケッチに出かける予定だったが（公民館～諏訪神社～香川駅～小出川）、雨天のため公民館内のみでの講座になった。参加者の自己紹介からはじめ、座学、実践、発表を行った。また、外出できないため作品に押す落款を消しゴムを彫って作成した。初めは堅い雰囲気であったが、だんだんと参加同士が打ち解け、和やかな空気のなかで講座を進めることができた。（内容：色付け 濃淡 遠近法 デフォルメ） 室内のみだったのでモチーフを、草花、野菜、食器など多めに用意し、昼食をはさみ時間通り2時30分の解散になった。</p> <p>【2日目】茅ヶ崎美術館アトリエ10時集合しアトリエにて座学を行ったのち、美術館庭園内でスケッチした。昼食は海岸の予定だったが雨天のためアトリエ内でとり、1時過ぎに海岸までウォーキングをし、茅ヶ崎野球場前海岸周辺でスケッチを行った。その後、アトリエにもどり発表会をし解散とした。</p>				
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数であったので講師と参加者の交流でき、参加者同士の交流も活発に行われた。その結果、サークル化への進展があり、新たな人間関係を作ることができた。</li> <li>・美術館アトリエ使用に関して、公民館長の力添えでスムーズに借りることができたと同時に柔軟な対応で事業に協力していただいた。</li> <li>・参加者の何人かは茅ヶ崎美術館に初めてという方がいらっしやり、設備や管理等に満足している様子であった。市内公共施設利用の機会となった。今後も他施設や他課との協働や協力の事業を開催し事業の幅を広げていきたい。</li> </ul>				
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動習慣とウォーキングの楽しさ体験という事業目的とはずれた講座になったが、15分で仕上げる誰でも簡単に挑戦できる水彩画という学習機会の提供ができた。</li> </ul>				
事業に係る課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・材料持参にしたが、水筆やパレット絵具を用意するのはハードルが高い方がいた。材料は館で準備、徴収した方が受付電話も容易であり、参加者も単簡であったと考える。次回参考にしたい。</li> <li>・「水彩スケッチ散歩の会」としてサークル発足したが、とりあえずは未登録として活動するようである。社会教育の観点から、団体登録をして会員を募り、利用者懇談会に入り自分たちの学びを地域の貢献できるような方向にもっていけるような促しが、今後公民館から必要である。</li> <li>・雨のためウォーキングはほとんどできなかった。しかし、スケッチを中心とした講座で、水彩初心者には有意義であったようだ。次年度開催するようであれば「歩く」or「スケッチ」の講座比重を講師と検討する必要がある。</li> </ul>				

Ca

その他

<美術館使用手続き>  
平成30年5月29日  
文化生涯学習課へ「茅ヶ崎市美術館使用申請書」「茅ヶ崎市美術館アトリエ等利用料金減免申請書」提出

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

事業報告書

報告日	平成30年10月8日	担当者	田端 洋
-----	------------	-----	------

事業名	ちがさき再発見の旅講座 ～江戸時代を考えよう ―茅ヶ崎の村々のすがた― ～				
事業計画カテゴリ	6. 公民館ふれあい事業				
目標・目的	茅ヶ崎の自然、地形、歴史等の再発見を通して茅ヶ崎への想いを深めてもらうとともに、自ら茅ヶ崎探訪に出かけられるきっかけをつくることを目的とする。 今回は歴史に目を向けて、江戸時代の「香川」、「甘沼」、「円蔵」他の村々の姿や村人の生活を辿りながら、幕末・維新の世相までを見ることとする。				
日時	平成30年9月30日（日）13:00～14:30				
場所・会場	香川公民館集会室（大）				
講師・指導・協力者	平山 孝通さん（市史協力員）				
報償額	10,000円 （詳細裏面）	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金（資金前渡）		
対象者	一般	定員数	20名	実績人数	21名
材料費	なし	材料費用途	— （収支報告裏面）		
概要	1. 「略年表」で茅ヶ崎の時代の流れを概説 江戸時代は、徳川家康の征夷大將軍の宣下前の1590年に家康が関東転封に始まったと言える。家康の関東転封後、茅ヶ崎は各旗本への知行割りを進めていった。 2. 旗本による知行割り、領主の変遷について説明 3. 江戸時代の茅ヶ崎の村人の日々生活について、農作業風景を描いた「四季耕作図」を参照しながら説明。また、村人の一生に一度とも言える伊勢参り（伊勢・関西への団体旅行のようなもの）の様子を「伊勢道中記」で説明。 4. ペリー（ペルリ）来航時の様子を藤間柳庵の「太平年表録」を参照に幕末の世相を説明。「太平年表録」を読むと、情報収集力の確かさが読み取れる。				
成果	1. 茅ヶ崎の歴史を遡ることで、今まで知られていなかった歴史の一面を知る機会となった。1221年の承久の乱では、現在の香川を拠点とした香川氏が活躍していた。また、1470年には、茅ヶ崎の住人が熊野的那智大社を参詣していた（那智大社の参詣者几帳に「ちかさき、下まちや、やはた」の地名が見られる）等々。 2. 茅ヶ崎は徳川家康の家臣団の旗本に知行割りをした旗本統治で開発が進められた地域であったことを知る機会となった。 3. 藤間柳庵の「太平年表録」などを讀と当時の茅ヶ崎では確かな情報を仕入れ、その情報を伝える術もあったのではないかと思われる。このことから幕末・維新時の茅ヶ崎は情報収集・伝達網が築かれていたことに気づいてもらえた。				
自己評価	Aa				
事業に係る課題・反省点	1. 茅ヶ崎の再発見を通じて、茅ヶ崎への想いを深めてもらうことを企図した講座であることから、今後関心の高い歴史に加えて、自然、生き物、地形、芸能等のジャンルでテーマを決めて企画していきたい。				

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

## 事業報告書

報告日

平成30年10月8日

担当者

森 俊彦

事業名	高齢者事業 「めざせ 健康 長寿4」			
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業			
目標・目的	<p>超高齢社会を迎えているなかにあっても、高齢者の方々が自らの体身を動かし、人々と交わることにより、より生き生き生活できるきっかけづくりを図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の健康・長寿に関する講座</li> <li>・高齢者がつどえる場所づくりを目指す。</li> </ul> <p>なお、そもそもこの事業は、市民から事業案を募集する「市民提案事業」であり、4年目の事業で、提案者と香川公民館が協議しながら、実際の開催までを協力して進めてきたものである。</p>			
日時	平成30年9月12日(水)、19日(水)、27日(木)、10月4日(木) 10時～11時30分			
場所・会場	香川公民館 講義室			
講師・指導・協力者	<p>①松村 陽子さん(ひまわり体操講師) ②池田 千恵子さん(NPOこころとからだの研究会認定講師、介護予防運動指導員 ほのぼの気功香川講師) ③平野 三千代さん(公益財団法人 日本ボールルームダンス連盟 パール湘南、ベルバラ・アカシア講師) ④小泉 政子、佐藤 みち子、佐藤 節子さん(市高齢福祉介護課)高齢者支援リーダー</p>			
報償額	24,000円 (8,000円×3名)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 講座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)	
対象者	60歳以上	定員数	20名	実績人数 21名 *4回延べ60名 ①18名②16名 ③10名④16名
材料費		材料費用途		
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の健康・長寿に関する講座として、併せて高齢者がつどえる場づくりとした。</li> <li>・4回シリーズとして①ストレッチ体操、ソフトエアロ ②気功 ③社交ダンス ④ちがさき体操・お茶のみ(ざっくばらんな懇談)として実施した。</li> <li>②気功及び③社交ダンスは初めての内容(種目)であった。</li> <li>なお、④ちがさき体操に引き続き、「うた体操」を取り入れた。お茶のみは、茶菓をつまみながら、懇談をした。簡単な自己紹介の予定がその方の身上にまで広がり、事務局で切り上げる位の活気があった。</li> </ul>			
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストレッチ体操・ソフトエアロ、気功、社交ダンス、ちがさき体操と色合いに変化をつけ、体を動かすこと、集中することなど、継続できる内容だった考える。</li> <li>・受講者が何よりも「楽しむこと」が出来たといっていたことが、良かったと考える。</li> <li>・普段は家にいることが多い方やリタイア後の男性の方(2人)が勇気を出して参加していただいとことがわかり(4日目のお茶のみ)、「高齢者がつどえる場」づくりの端緒の機会を提供できたのかなと考える。</li> <li>・受付の段階で、年齢とともに運動経験を確認した中、全く運動をやっていない方など、講師には、そういった情報を提供し、無理なく進めるということで事前打合せするとともに参加者の動きなどを勘案して講座を進めた。</li> <li>・今回は、ちがさき体操を除き、全て香川公民館で活動しているサークルの講師を指導者とした。快く引き受けていただき、講師の方々は公民館への還元の意味合いで話されていた。さらにサークル(気功、社交ダンス)の方々がサポートしていただき、強力なバックアップになった。</li> </ul>			
自己評価	Aa			
事業に係る課題・反省点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主催事業とはいえ、講義室を4週連続同じ曜日、時間を占用するのはいかがなものかの配慮から、前2回(水曜日)と後2回(木曜日)と実曜日を変えたが、受講者にとっては同じ曜日の方がきっちり参加できることがわかった。</li> <li>・「気功」のサークルへの希望者が5名いたが、サークルの方が活動場所(保育室)の大きさ(容量)から話し合いで2名のみを、入会が認められた。新規サークル化については、講師への謝礼から一定程度の人数(会員)が必要であり、今回は見送ることとなった。</li> <li>「社交ダンス」についても、入会希望者が3名ほどいたが、既存のサークルはレベルが高水準のため、初心者は入会はご遠慮いただくのが妥当となり、又、新規サークル化までは煮詰まらなかった。</li> </ul>			

その他

- ・4日目のちがさき体操は主たる講師が家族にアクシデントがあり、不参加となったが、当初予定のちがさき体操+α部分他の高齢者支援リーダーで対応した（うた体操）
- ・気功は31年度継続又は別途単独事業での要望が強かった。

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A：定員以上の申し込み

a：充実。次につながりそう

B：定員の8割以上

b：充実。次へのつながりはない

C：定員の半数以上

c：やや不十分。

D：定員の半数以下

d：内容の見直しが必要

## 事業報告書

報告日

平成30年10月10日

担当者

志村光一

事業名	ボール運動教室（まちのフィットネス）				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	高齢者が利用の中心となっている公民館を多世代が集まる場とするため、 ①子育て世代（子どもが0歳～小学生）子ども同士、また親同士の交流の場づくり、また公民館に来館するきっかけをつくる。 ②子育て世代に教育的なスポーツプログラムを提供する。				
日時	10月6日（土）①10時～10時45分 ②10時45分～11時30分				
場所・会場	香川小学校体育館				
講師・指導・協力者	（一社）アステム湘南スポーツソサエティ				
報償額	¥5,000 （詳細裏面）	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金（資金前渡）		
対象者	①未就学児の親子 ②小学生	定員数	①10組 ②15名	実績人数	①11組 ②6名
材料費	—	材料費用途	— （収支報告裏面）		
概要	ボール運動教室（ボールを投げたり、転がしたり、ドリブルしたりする適切な身体の使い方を学ぶ）				
成果	アンケートでは、9割が満足していると回答した。また、9月に実施した「かけっこ教室」に参加した方も5組おり、前回の講座からつながりができている。内容としても、保護者向けの幼児期の子どもをどう運動させればいいのかという話もあり、子育て世代の支援につながっている。				
自己評価	Aa				
事業に係る課題・反省点	小学生の参加が6人と少なかった。小学生には、ボール運動といった抽象的な内容ではなく、バスケットボールやサッカーといった具体的なスポーツの方が集客力は良い。また、時間が短かったという声もあり、4歳～6歳の親子対象でも1時間に延ばすことも考える。				

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

## 平成 30 年度

資料1-21

事業報告書		報告日	担当者	
		平成30年10月30日	鈴木 弘子	
事業名	かめさんのおうち 10月			
事業計画カテゴリ	1. 家庭教育支援関連事業			
目標・目的	<p>地域における子育て環境は、必ずしも十分だと言えない状況にある。こうした状況の中、地域の家庭教育学習の拠点として公民館の充実が期待されている。</p> <p>子育ての悩みや不安を一人で抱え込まないよう身近で気軽に利用できる支援の場をつくり、さらには地域との接点の場所として公民館が活用されることを目的として開催した。</p>			
日時	平成30年10月24日(水) 10時～13時			
場所・会場	講義室・保育室			
講師・指導・協力者	香川公民館保育ボランティア 磯田ひとみ・山本茂美・手代木・勝佳子 浜見平保育園 熊坂光(応急手当)			
報償額	9,200円 (2,300円×4名)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)	
対象者	乳幼児を持つ親(保護者)とその子ども	定員数	40名	実績人数 子ども13名 保護者他9名 (合計21名)
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)	
概要	<p>乳幼児13名(内、鶴が台保育園2歳児6名) 保護者9名(内、鶴が台保育園保育士2名、他1名) 計22名 (天気:晴れ)</p> <p>初めての参加が4組ある。参加者はそれぞれこどもの興味に従って自由に遊ばせたり、ボランティアスタッフと話をしていた。 保育士による豆講座「応急手当」は身近な怪我の手当ということで傷口の手当、止血法、鼻血、やけど、けいれん、ねんざ、打ち身、骨折の応急手当の方法を覚えてもらう。また、応急手当の話の前には体操、手遊びなどで親子でのふれあい遊びも楽しむ。</p>			
成果	保育士による豆講座の応急手当は身近な内容だったのでとても興味深く聞いているようだった。三角巾の使い方も笑い声も混じりながら真剣に行っていた。忘れないように時々行って欲しいとの希望も出た。応急手当の前に体操や手遊びも行い、雰囲気がとても和らいでいた。			
自己評価	鶴が台保育園の園児が参加したことで遊びに刺激があるのか、雰囲気が活気づいていた。			
Da				
事業に係る課題・反省点	豆講座の実施することは保護者にもボランティアスタッフにも学習の場になり、良いことなのだが、かめさんのおうちのコンセプトである「親子でのんびり過ごす」「友だちを作る」などの時間が少なくなるのではないかと、矛盾も感じている。実際、運営しているボランティアスタッフとも、話し合いよりよい方法を考えていきたい。			

その他

豆講座 講師 浜見平保育園保育士 熊坂光  
内容 別紙

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

A : 定員以上の申し込み  
B : 定員の8割以上  
C : 定員の半数以上  
D : 定員の半数以下

内容に対する評価

a : 充実。次につながりそう  
b : 充実。次へのつながりはない  
c : やや不十分。  
d : 内容の見直しが必要

平成 30 年 度

資料1-22

事業報告書

報告日	平成30年11月10日	担当者	正岡 透
-----	-------------	-----	------

事業名	香川シニアフリーサロン ～地域デビュー応援 ・さつまいも料理挑戦～				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	長年ここに住んでいるわりには地域とのかかわりが無くあまり知り合いもないという人のために地域での居場所探しと、料理を覚え家族、知人に作れる講座とします。終了後は参加者と食事をとりながら仲間づくりや居場所さがしのきっかけになることを目指して企画します。				
日時	平成30年11月8日(木) 10時～14時				
場所・会場	香川公民館 調理室・和室				
講師・指導・協力者	(茅ヶ崎市食生活改善推進団体 すずらん・香川公民館、他で活動サークル) 出光 壽子 さん				
報償額	¥21,000 (詳細裏面)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	60歳以上の方	定員数	16名	実績人数	2名
材料費	500円	材料費用途	食材費 (収支報告裏面)		
概要	本日は鶴が台中学校、職業体験4人に料理教室に入っただきシニアの方々と一緒になって料理を作り作ったものを一緒に食べ親睦を深めました。 はじめに(食改・すずらん)の方二名より本日の料理、さつまいもごはん、さつまいもと豚肉の黒酢炒、さつまいもの皮の金平、ゆらゆらワカメのすまし汁、さつまいもとパイナップルの茶巾絞りの作り方をデモンストレーションを行っていただいた後に2班に分かれ(すずらん)の方の指導のもとに手の洗い方から始め、材料の洗い方、材料の切り方、調味料の種類、量をレシピに沿って料理を作り出来上がった料理を、和室に運び中学生を交えみなさんで頂きました。				
成果	*職業体験の、中学生が入り教える側の方々も普段とは違った教え方で手ごたえがあった。 *普段は料理には使わないさつまいもが主でどんな料理になるか心配する向きもあったが料理をしてみてさつまいもも料理に使える事が解った。 *さつまいもご飯は二種類のご飯を炊き食べ比べが出来た。 *ご飯にもおかずにも、たくさんさつまいもが入っていて食事ごお腹一杯になった。				
自己評価	Da				
事業に係る課題・反省点	*参加者が少なかった、周知不足で十分できなかった。 *レシピについては事前にサークルさんより頂いていたが調理室の壁に貼り付けて見ながらの料理の進行とっていたが参加者一人一人に必要である。 *シニア対象の講座は新しく参加してくれる人を増やすために、より多くの人が興味を持つテーマを企画する事が大事か、その為には定年後に行いたい事のアンケート調査を活用しその中で人のつながりが出来る講座の企画が必要である。				

報償額詳細

食改 ¥10.000

菊地さん ¥11.000

その他

平成30年度

資料1-23

事業報告書

報告日	平成30年11月17日	担当者	志村光一
-----	-------------	-----	------

事業名	なわとび教室（まちのフィットネス）					
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業					
目標・目的	高齢者が利用の中心となっている公民館を多世代が集まる場とするため、 ①子育て世代（子どもが0歳～小学生）子ども同士、また親同士の交流の場づくり、また公民館に来館するきっかけをつくる。 ②子育て世代に教育的なスポーツプログラムを提供する。					
日時	11月17日（土）①10時～10時45分 ②10時45分～11時30分					
場所・会場	香川公民館 講義室（香川小学校体育館に変更）					
講師・指導・協力者	（一社）アステム湘南スポーツソサエティ					
報償額	¥5,000 （詳細裏面）	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金（資金前渡）			
対象者	①未就学児の親子 ②小学生	定員数	①10組 ②15名	実績人数	①11組 ②5名	
材料費	—	材料費用途	— （収支報告裏面）			
概要	なわとび教室（短縄、大縄など使用し、正しい体の動かし方を学ぶ）					
成果	かけっこ教室、ボール運動教室に参加していた人が9割以上であった。継続してリピーターが獲得できているといえる。アンケートでは、全員が満足したと回答した。なわとびができなかったが、できるようになった人もおり、得たものもあった。子育て世代の参加が多く、目的を達成できているといえる。					
自己評価	<table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="padding: 10px;">Aa</td> </tr> </table>					Aa
Aa						
事業に係る課題・反省点	45分は短いという声が多かった。1時間程度に拡大した方がよい。また、定員の増加も検討した方がよい。小学生は参加が少ないので、プログラムの変更を検討した方がよい。					

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

## 事業報告書

報告日

平成30年11月16日

担当者

鈴木弘子

事業名	スマイリングままサロン				
事業計画カテゴリ	1. 家庭教育支援関連事業				
目標・目的	<p>妊娠中の急にお腹が大きくなった為に起こる腰痛、それにつづき出産しても昼夜を問わず乳児を抱くことにより腰痛が慢性化する母親が多くいる。また、妊娠・出産によるホルモンバランスの崩れや育児疲れ、栄養バランスの乱れなどにより、心のバランスが崩れ、子育てへの不安や焦り、孤独感からイライラしたり、身体の不調を感じたり、更には「産後うつ」にまで至る深刻なケースも少なくない。そのような母親が一人で悩まないように産後体操を通じて、子育て中の親の不安や閉塞感の解消に努める。また、年齢の近いこどもを育てる仲間をもち情報交換をしたり、悩みを分かち合うことで、「孤独な子育て」を回避することも目的とする。</p> <p>市内全域の方達が幅広く参加しやすく、講座終了後も参加者同士がコミュニケーションを取り続けやすい「ご近所の友人」を作る為に、市内全域に点在する公民館5館が協力し協働開催する。</p>				
日時	平成30年10月30日(火) 11月6日(火) 11月13日(火) 10時30分～12時				
場所・会場	香川公民館 講義室・保育室				
講師・指導・協力者	香川公民館 保育ボランティア 10月30日(火) 手代木淳子・川浪恵子 11月6日(火) 勝佳子 11月13日(火) 勝佳子・手代木淳子				
報償額	10000円	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	産後4ヶ月～1年以内の母親と子	定員数	10名	実績人数	12名(延29名)
材料費	¥0	材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	<p>第1回「産後の身体をケアしよう」 簡単なゲーム感覚でお互いに自己紹介や子どもの紹介をしあい、和やかな雰囲気作りから入る。参加者から、体の不調等を聞きながら、日常動作の改善策とストレッチのを行う。</p> <p>第2回「産後の身体を引き締めよう」 日頃の筋肉の疲労をとるためのエクササイズを行う。また、骨盤底筋の大切さ・鍛えるエクササイズを行う。産後のホルモンバランスと体調の関係、高齢になったときまでも影響することなどの話を聞く。</p> <p>第3回「産後のエクササイズを続けよう」 産後に必要な栄養について話を聞く。正しく体が動かしているかを一人一人確認してもらいながら2日間行ったエクササイズを行う。後半は参加者の交流のを図るためお茶タイムをもつ。</p>				
成果	<p>定員以上の申し込みがあり、キャンセル待ちでの希望者も講師の好意で受けることができた。赤ちゃんを足元に寝かせたり、抱っこしながら行ったエクササイズだったが参加者は赤ちゃんの様子を気にしながらも笑顔いっぱい3日間だった。指導者はとてもパ明るく元気で、ぽかぽか保育園の方や指導者の補助の方が優しく赤ちゃんを抱っこしたり、おかあさん達に気軽に話しかけたりしているせいもあり、とても和やかな雰囲気だった。</p> <p>こんなに体を動かしたのは久しぶりでとても気持ちが良い、もっと続けたいという声が多々あった。</p> <p>エルゴの使い方など、日々の生活の中で体に負担をかけないワンポイントアドバイスなどもあり、参加者が共感する場面が多かった。経験に密着している内容はとても効果があると思う。</p> <p>3日目のお茶タイムでは質問も受けたかったのだが、参加者どうしの話が弾んでいるからという配慮から、参加者の交流を図ることに重点をおく。できたら、お互いに連絡先を交換できるようなところまでいってほしかったがそこまではいかなかったようだ。</p>				
自己評価	<p>Aa</p>				
事業に係る課題・反省点	<p>身体を動かす事も、他の人と交流できたこともとても楽しかった、このような機会がもっとほしいという感想がたくさんあった。乳児期の母親にはサークルをつくって活動するまでは気持ちゆとりがないと思う。継続できる方法がないものだろうか。共催のぽかぽか保育園からも同じ意見が出ている。</p> <p>2か月の赤ちゃんの申し込みがあったが、参加了承をもらえた。産後間もなくから不安は始まるので、少しでも早くケアの機会があったほうがよいのではないかなと思う。</p> <p>フリートークの時間をもう少し長く設ければ、より交流を深められ、母親同士が友達作りをするきっかけが作れたのではないかなと思った。あかちゃんを脇に寝かせてと行えるのはとても良い事なのだが、会場が狭かったのは危険も感じた。次回行うとしたら、人数や会場を調整、また内容も交流時間を長くするなどしたい。</p>				

その他

- ・講師1名の他、補助者1名  
ほかほか保育園より2名補助に入る。
- ・お茶の準備はほかほか保育園側から提供

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

## 事業報告書

報告日

平成30年11月20日

担当者

田端 洋

事業名	みんなの経済教室 ～株式投資の基礎知識～				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	初めて株式投資を考えている方、もう一度株式投資の知識を整理したいと考えている方に対して、株式投資の基礎とリスク対策の方法を解説することを目的とする。				
日時	平成30年11月18日(日) 13:00～15:00				
場所・会場	香川公民館 集会室(大)				
講師・指導・協力者	川口 由美 氏(日本証券業協会 金融・証券インストラクター)				
報償額	0円(金融広報委員会負担)	(詳細裏面)	支払い方法	<input type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)	
対象者	一般の方	定員数	25名	実績人数	20名
材料費	なし	材料費用途	— (収支報告裏面)		
概要	<p>配布資料を基に、概ね次のような解説が行われた。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 貯蓄と投資の違いを解説し、投資としての株式投資の意義を解説。</li> <li>2. 株価を動かす要因として、企業業績、金利・為替・海外市況等の景気、政治・国際紛争等の経済外要因、期間投資家・外人等の市場内部要因、需給関係等があることを解説。</li> <li>3. 株式市場全体の動きを示すデータの見方、会社の価値を測る代表的指標(株価収益率PER、自己資本収益率ROE、配当性向、配当利回り)求め方とこれら指標が示す意味を解説。</li> <li>4. 株式の売買注文の流れと手続きについて解説。</li> <li>5. 株式投資におけるリスクとリターンの意味について解説。株式投資における主なリスクには、①信用リスク、②価格変動リスク、③為替変動リスクがあること、またリスクは期待される収益(リターン)の振れ幅のことを解説。</li> </ol>				
成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 株式投資を考えるにあたっての基礎的な知識や売買手順について分かってもらえたと思う。</li> <li>2. 新聞等の株式市場欄のデータの見方やデータの意味等についても分かってもらえたと思う。</li> <li>3. 株式等におけるリスクとリターンの関係も分かってもらえたと思う。また、株式投資はリターンも期待されるが、リスクも大きいハイリスク・ハイリターンであり、従ってローリスク・ハイリターンという金融商品は存在しないことも分かってもらえたと思う。</li> <li>4. 株式、景気、金利の関係では、株式が先行(上昇または下降)し、その後景気、次が金利の順に変動するので、景気や金利がピークアウトするときには株式は既にピークを終えているということを理解してもらえたと思う。</li> <li>5. 資産運用では、「ひとつのカゴに卵を盛るな」と言われるように、資産は分散することが重要であることに気づいてもらえたと思う。</li> <li>6. 株式投資等資産運用は、自己責任で行うこと、また冷静な判断力を持つこと、中長期投資を基本とすること、日常生活に支障が出るような性質のお金では絶対投資しないことが肝要であることを理解してもらえたと思う。</li> </ol>				
自己評価	Ba				
事業に係る課題・反省点	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 株式投資に限定した講座としたため、関心を引いたようである。今後も、金融商品ならば特定の商品に限定した内容で企画していきたい。</li> <li>2. 講座企画の段階で、30～50代の方が興味・関心を持つような内容を検討していきたい。</li> </ol>				

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要

事業報告書

報告日	平成30年11月18日	担当者	正岡 透
-----	-------------	-----	------

事業名	お米をつくろう&さつまいもも作ろう					
事業計画カテゴリ	2. 子ども事業					
目標・目的	<p>私達が、毎日主食で食べているお米、お米はどのようにして作られているのでしょうか。お米づくりを田植えから雑草取り、稲刈りとお米づくり八十八日間を水田で体験して農業への理解を深め農業者との交流、茅ヶ崎産農産物の茅産地消を促進することを目的とします。</p> <p>さつまいもは、水田近くの休耕畑を借り苗の植え付けを行いつる返しを行った後さつまいも掘りを行います。</p>					
日時	平成30年4月28日(日)～11月17日(日)までの日曜日、9回					
場所・会場	茅ヶ崎市萩園水田・畑・香川公民館					
講師・指導・協力者	石井 政幸					
報償額	30,000円 (詳細裏面)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)			
対象者	小学校4年生以上の家族	定員数	15家族	実績人数	10家族	
材料費	一家族、3000円	材料費用途	種もみ、さつまいも苗、肥料等 (収支報告裏面)			
概要	第一回 4月28日(土曜日) スケジュール、水田&畑場所、体験内容などを公民館で説明 第二回 5月27日(日曜日) さつまいも苗植え 第三回 6月17日(日曜日) 水田田植え 第四回 7月15日(日曜日) 水田雑草取り 第五回 8月19日(日曜日) 水田雑草取り&さつまいもつる返し 第六回 9月16日(日曜日) 水田雑草取り&ちつまいも試し掘り 第七回 10月7日(日曜日) さつまいも掘り 第八回 10月14日(日曜日) 稲刈り 第九回 11月17日(日曜日) 振り返りとお米の分配 他、畑などでパーベキュー、芋煮会					
成果	*昨年お米を作ろうに参加された2家族と今年新たに8家族を加えた10家族でさつまいもの苗植えを最初に行い6月に入り田植えを行った、田植えの様子はハーモニース茅ヶ崎で放送されお米を作ろうの事業がPR出来た。 *7月、8月、9月の炎天下の中の、ひえ、雑草取りを行い水田の中にはいろんな小動物がいて稲には害虫のジャンボタニシの赤い卵も初めて見た。 *10月に入りさつまいもの収穫では苗の植え方によって芋の大きさが違うことが解った。 *稲刈りは鎌を使い行いあの小さな苗からお米になる過程が行ってみてよく解った。 *脱穀、もみすりは農家に行ってくれ、玄米を精米し11月17日に銘柄キヌヒカリを、土鍋と電気かまを使い炊き上げ食べ比べをしました土鍋のお米が美味しいとの評価でした。 *アンケートにも、半数以上次年度も行いたいとの声があり次年度は水田と近くの休耕畑を借り水田はお米畑には野菜作り行いたい。					
自己評価	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">Ca</td> </tr> </table>					Ca
Ca						
事業に係る課題・反省点	*会社に勤めている方がほとんどで、説明会以外の活動日を日曜日に設定したが日曜日は子どもや地域行事もあり土曜日にも活動する日を設けても良かったと感じた。 *さつまいもの試し掘りと水田の雑草取りは一緒の日ではなく日にちをずらした方が効率が上がって疲れも少なくなる。 *今年も農家の方に稲刈り後脱穀、籾摺りまで行っていただいたが水田で行う作業ははお米をつくろうのメンバーで行う必要がある。					
<table border="1"> <tr> <td>裏面につづく</td> </tr> </table>						裏面につづく
裏面につづく						

その他	日程	内容	参加人数	延べ人数	
	4月28日 土曜日	スケジュール、水田場所、内容説明	10家族 21人	21人	
	5月27日 日曜日	さつまいも苗50本植え	8家族 18人	39人	
	6月17日 日曜日	水田、田植え	9家族 26人	65人	
	7月15日 日曜日	水田雑草取り	6家族 11人	76人	
	8月19日 日曜日	水田雑草取り&さつまいもつる返し	6家族 15人	91人	
	9月16日 日曜日	水田雑草取り&さちまいも掘り	6家族 16人	107人	
	10月7日 日曜日	さつまいも掘り	5家族 12人	119人	
	10月14日 日曜日	稲刈り	6家族 21人	140人	
	11月17日 土曜日	お米分配と振り返り	7家族 18人	158人	
	10月29日 月曜日	石井さん お米脱穀	石井さん 家族		
	10月31日 水曜日	石井さん お米粃摺り	石井さん 家族		
	成果欄 自己評価 評価基準				
	定員に対する評価			内容に対する評価	
	A : 定員以上の申し込み B : 定員の8割以上 C : 定員の半数以上 D : 定員の半数以下			a : 充実。次につながりそう b : 充実。次へのつながりはない c : やや不十分。 d : 内容の見直しが必要	

## 事業報告書

報告日	平成30年11月28日	担当者	鈴木弘子
-----	-------------	-----	------

事業名	ユニバーサルスポーツ交流会				
事業計画カテゴリ	3. 社会的要請課題事業				
目標・目的	同年代の障害のある人ない人が交流することによって、健常者にとっては障害とは何かを理解する機会とし、また障害のある人は同年代の健常者とかかわり生活経験を少しでも広げられる機会とする。				
日時	平成30年11月17日(土) 10時～15時				
場所・会場	茅ヶ崎市体育館 及び 香川公民館 調理室				
講師・指導・協力者	株) AHサポート副代表 放課後等デイサービスマネージャー 浅井いずみ 他AHサポート職員				
報償額	5,000円 (詳細裏面)	支払い方法	<input checked="" type="checkbox"/> 口座振込 <input type="checkbox"/> 現金(資金前渡)		
対象者	15歳～19歳の健常者と簡単な運動や集団活動ができる障害者	定員数	各10名 計20名	実績人数	25名
材料費		材料費用途	(収支報告裏面)		
概要	<p>午前には体育館で支援級生徒、養護高校生、小中高校生混合チームで障害物競争、リレー、ダンスなど、かなりハードな動きのある運動をする。</p> <p>終了後、支援級の小学生帰宅し他のメンバーは公民館へ移動し全員で和室にてお弁当を食べる。昼食後一人づつ自己紹介をする。</p> <p>昼食中にAHサポートの職員がおやつ作りの準備をする。</p> <p>午後、全員エプロン、マスク、三角巾をつけ、調理室に移動し、おやつ作りにとりかかる。メニューは簡単ティラミス。作り方の手順の説明を聞いた後、障害児、健常児混合グループに職員が1名づつ付き、サポートを受けながら作っていく。</p> <p>全グループ出来上がってからいただきますをして、食べる</p>				
成果	<p>一般応募はなく高校には予め事業について説明し参加協力を依頼しておくが、実際は4名だけの参加だった。他の行事と重なってしまったことが原因しているようだ。小中学生には個別に声掛けすると興味を示し、友だちも誘い参加してくれる。中学生もやはり部活と重なっていたようだが、部活の顧問から勧められたとのことだった。中学生の参加はやはり、部活があつて参加しにくいというのが現状なのだろう。養護学校生徒も一般の応募はなくAHサポートの紹介からの参加であった。</p> <p>午前の運動では走る量が多く、日常運動をしないという高校生は「きつーい！」と音をあげながらも、「こんなに思い切り体を動かすことは気持ちがいい」と言っていた。支援級、養護学校の生徒の中には、途中でやめたり、指導員のサポートを受けたりして参加しているのだが、中高生たちはそれをさして気にする様子もなく、ゲームに参加していた。</p> <p>昼食後の自己紹介は屈託のない障害児の質問で笑いが起きたりしてその場がなごんでいた。おやつ作りでは、小中高生は養護高生のフォローを上手にしながら、出来上がっていくのを一緒に喜びながら作っていく様子がみられた。</p>				
自己評価	<p>Aa</p>				
事業に係る課題・反省点	<p>今回参加した支援級、養護学校の生徒は軽度な知的障害だと思えるが、小中高生は特に違和感も見せずにいた。感想をみると個性として受け入れてあげることがわかった。このような機会があったら、参加したいという声が多かったが、実際は中高生はなかなかあつまりにくいという現状がある。</p> <p>今回、高校生には公民館の活動について意見聞いたので、参考にしながら伝える方法を職員一同で考えていきたい。</p>				

その他

成果欄 自己評価 評価基準

定員に対する評価

内容に対する評価

A : 定員以上の申し込み

a : 充実。次につながりそう

B : 定員の8割以上

b : 充実。次へのつながりはない

C : 定員の半数以上

c : やや不十分。

D : 定員の半数以下

d : 内容の見直しが必要